

06	尾張旭	尾張旭市立旭丘小学校	フリガナ フナキ マサヤ 氏名 船木 雅也
分科会番号	03a	分科会名	社会科教育（小学校）

「主体的・対話的に課題を追究する児童の育成」
～小学5年社会科「自動車をつくる工業」における自由進度学習を通して～

1 主題設定の理由

Society5.0の進展により、児童には変化の激しい社会の中で主体的に課題を見だし、他者と協働しながら解決していく力が求められている。しかし現状の社会科授業においては、「覚えることが多い」という意識から、暗記中心の学習として捉えられる傾向がある。これは、教師主導の一方向的な授業が主であることに起因すると考えられる。

本校5年生へのアンケートでは、「内容が難しい」と感じる児童が24%、「簡単すぎる」と感じる児童が34%存在し、一斉授業では学力差への対応が難しい実態が明らかとなった。また、PISA2022では日本の学力は高い一方で、「自力で学習を進める力」が低い結果となっており、主体的な学びの育成が課題である。

これらを踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びを両立させる方法として自由進度学習に着目した。本研究では、児童が自ら学び方を選択しながら、他者と関わりつつ課題を追究する姿の育成を目指した。

2 研究の方法

（1）目指す児童像

- ① 他者と協働し、主体的に課題解決に取り組む児童
- ② 自動車の未来や社会の課題を自分ごととして捉え、よりよい社会を考えようとする児童

（2）研究の仮説と手立て

仮説Ⅰ

自由進度学習を取り入れ、学習の進め方を工夫することで、児童は主体的・対話的に課題解決に向かうことができるだろう。

手立て① 児童の興味を引き出す「カースポット」を設置する。

手立て② 学習計画と振り返りを記録する「学習計画表」を活用させる。

手立て③ 学習方法を選択して、学習プリント「マイ学習シート」を進めさせる。

手立て④ 学習できる場所を自由に選択させる。

仮説Ⅱ

生活と関連付けた活動や体験により、児童はそれらを自分ごととして捉え、よりよい社会を考えようとする姿が見られるだろう。

手立て⑤ 学習内容と自分の生活を結びつけて考えられる活動を設定する。

手立て⑥ 実際の機械の動きやスケールを見学し、生の声に触れさせる。

（3）検証計画

- ・ 研究期間： 令和7年10月～11月
- ・ 研究対象： 5年生 99名
- ・ 検証方法： 児童の様子、学習プリント、抽出児童の変容、アンケート
- ・ 抽出児童

児童Xは、日頃からぼんやりしている様子が見られ、教師の話に対しても関心をあまり示さず、指示を受けても行動に移すまでに時間がかかる傾向がある。事前アンケートでは「社会科の授業で学んだことを基にして、自分たちがすべきことを考えることがありますか」という問いに対し、「いいえ」と回答しており、学びを自分の生活や行動と結びつけて捉えることが難しい様子が見られる。この実践を通して、児童Xには、自ら学びに向かう力と、自分ごととして社会的な課題に向き合う姿勢を高めていくことを期待している。

3 研究の実際

(1) 単元計画

単元課題	日本一の自動車会社を設立し、オリジナル自動車を開発しよう！		
成果物	オリジナル自動車開発書の作成		
過程	時数	学習活動	手立て
計画	1	「日本一の自動車会社をつくるために」 ○ガイダンスを聞き、日本一の自動車会社を設立するためには、現代の自動車工業を学ぶ必要があるという意識をもつ。	手立て①・② ・「カースポット」の設置 ・「学習計画表」の活用
追究	2 ～ 7	○「マイ学習シート」を使い、自分で学習方法を選択し、自分のペースで自動車工業について学ぶ。 学習プリントA 「自動車についてどれだけ知ってる？」 学習プリントB 「自動車工場の立地について調べよう」 学習プリントC 「自動車ができるまでについて調べよう」 学習プリントD 「自動車の部品をつくる工場について調べよう」 学習プリントE 「どうやって車を運ぶのか調べよう」 学習プリントF 「これからの自動車について調べよう」 発展 「オリジナル自動車をさらに開発しよう」 「オリジナル自動車のPRをしよう」 「ペーパークラフトで自動車を作ろう」	手立て②・③・④ ・「学習計画表」の活用 ・「マイ学習ノート」への取り組み ・学習スペースの選択
深化	8	「オリジナル自動車を開発しよう」 ○これまでに学習してきたことを生かし、オリジナル自動車開発書にオリジナルの自動車を開発し、友達に伝える。	手立て⑤・⑥ ・生活との接続 ・本物体験

本実践では「マイ学習シート」を活用して学習を進めていく。「マイ学習シート」は、「学習進行表」とA～Fまでの学習プリントがまとまった冊子になっている。「マイ学習シート」を使った自由進度学習は、表紙の「学習進行表」（資料1）に沿って決められた時間数の中で児童が自ら学習方法を選択し、自分のペースでA～Fまで学習プリントを進めていく。学習内容はあらかじめ定められているが、その進め方は児童自身が選ぶことができる仕組みになっている。1枚の学習プリントが終わるごとに模範解答を指定された場所に取りに行き、自分で丸つけを行う。一定枚数を終えた段階で教師のチェックを受け、合格すれば次の段階に進むことができる。最終段階ではチェックテストを受け、合格した児童は発展的な課題に取り組むことができるという流れである。

社会科 自動車工業のきかんな地域			
名前			
〈問題〉 (標準時間 7 時間) 日本一の自動車会社を設立し、オリジナル自動車を開発しよう！ ○目標 ・自動車が「どこで」「どのように」作られていたのかを調べ、その仕組みを説明できる。 ・自動車を造る人たちが、よりよいものを作るためにどのような「工夫と努力」をしているかを説明できる。			
学習の流れ	教科書 資料集	学習プリント	答え
(1) 自動車についてどれだけ知ってる？		A	あり
(2) 自動車工場の立地について調べよう。	教 P10・11	B	あり
(3) 自動車ができるまでについて調べよう。	教 P14・15 資 P88・89	C	あり
(4) 自動車の部品をつくる工場について調べよう。	教 P12・16・17 資 P86・87	D	あり
★チェック1 プリントを見せよう！			
(5) どうやって車を運ぶのか調べよう。	教 P18・19 資 P88・89	E	あり
(6) これからの自動車について調べよう。	教 P20・21 資 P90・91	F	あり
★チェック2 プリントを見せて、チェックテストを受けよう！			
ここまでは必ず終わりました			
発 展	① オリジナル自動車をさらに開発しよう！ (オリジナル自動車開発書) ② オリジナル自動車のPRをしよう！ (チラシなど) ③ ペーパークラフトで自動車を作ろう！		

【資料1 マイ学習シート表紙】

(1) 自動車に興味をもつ児童（手立て①の検証）

本実践では、児童が自動車をより身近に感じ、社会科の学習内容を自らの生活と関連づけて捉えられるようにすることを目的として、教室内に「カースポット」（資料2）を設置した。「カースポット」には、児童の興味を引き出すために自動車の名前クイズを掲示するとともに、エンブレムのロゴを黒板に貼った。これにより、授業開始前から児童が自然に集まり、クイズに挑戦したり、友人同士で問題を出し合ったりする姿が見られた。児童の会話には「これ、私の家の車だ」「この車に乗ったことある」といった生活経験に基づく言葉が多く、学習



【資料2 カースポットに興味を示す児童の様子】

内容と日常生活との接続が促されていることが確認できた。そして、振り返りにも「車クイズが楽しい。もっと車について知りたい」と自動車に対して興味をもつ内容が見られた。

(2) 学習の見通しをもつ児童（手だて②の検証）

第1時では、単元の見通しをもたせるためのガイダンスを行った。はじめに、これからの学習に費やす時間数と全体の流れを示し、児童が学習の道筋をイメージできるようにした。その上で、今回の学習問題として「日本一の自動車会社を設立し、オリジナル自動車を開発しよう！」という大目標を提示した。児童はこの言葉に強く反応し、「オリジナル自動車って楽しそう」「日本一の自動車会社ってどうしたらつくれるんだろう」と、学習への期待や興味を口にしていた。そこで教師は、「日本一の自動車会社をつくるためには、今の自動車がどこで、どのようにつくられているのかを知ること、そして自動車をつくっている人たちの思いや工夫を知ることが大切だね」と伝えた。児童はうなずきながら聞き、学習問題の意味を理解し、これからの学習に向かう意欲を高めていた。

その後、児童は「学習計画表」（資料3）を使って、7時間分の学習計画を自分で立てた。児童は真剣に計画を考え、自分なりの見通しをもって学習に向かおうとしていた。授業後には「早く次の授業がやりたい」と話す児童もあり、単元への関心が高まっていることがうかがえた。

(3) 主体的に学ぶ児童（手立て③の検証）

第2時から、学習プリントA～Fを自分のペースで進めていく自由進度学習を始めた。児童は、それぞれが「自分に合った学び方」を選びながら活動を進めていた。教科書や資料集をじっくり読み込む児童、タブレットで教師が用意したQRコードを読み取り、関連する動画を見ながら理解を深める児童、インターネットで調べたいことを探す児童など、学び方の幅が広がっていった（資料4）。児童XはQRコードを使った動画視聴を選び、画面に引き込まれるように集中して取り組んでいた。学習プリントの進捗も周囲と同じペースで進めることができ、学習プリントCに取り組んだ授業の振り返りには「今の車ができるまでには、たくさんの順番があることを知った。実際に見てみたい」と書いており、自動車工業への興味がさらに高まっていることがうかがえた。

また、学習プリントCの「車づくりのくふうにはどんなことがあるだろう」という問いでは、教科書に載っている「指示ビラ」や「らくらくシート」だけでなく、「ポカヨケ」といった教科書には載っていない内容を書きこむ児童もいた（資料5）。

また、学習プリントEの「日本国内での生産と現地生産（海外の拠点での生産）のメリットはなんだろう」という問いでは、多くの児童が悩みながらも、近くの友達に相談したり、自分の考えを伝えたりして、考えを深めていた。ある児童は初め、国内生産のメリットとして「部品の輸送費が減る」と考えていたが、周囲の4人の友達と話し合う中で、現地生産にも「完成した車をその国に運ぶ輸送費が減る」というメリットがあることに気付くことができた（資料6）。

このように、自由進度学習を進める中で、教師が促さなくても児童同士で自然に話し合い、課題を解決しようとする姿が多く見られた。自分のペースで学びながら、必要なときには友達と協力する姿から、協働的な学びの姿勢が着実に育っていると感じられた。

学習計画表				
名前（ ）				
社会科 「自動車工業のさかんな地域」	学習時間			
回	月/日	計画	実施	振り返り
		計画を書く ・プリントAなど	実際の学習・活動	・今日の学習の要点（ポイント） ・がんばったこと・気づいたこと ・次にがんばりたいこと
1		ガイダンス		
2				
3				
4				
5				
6				
7				

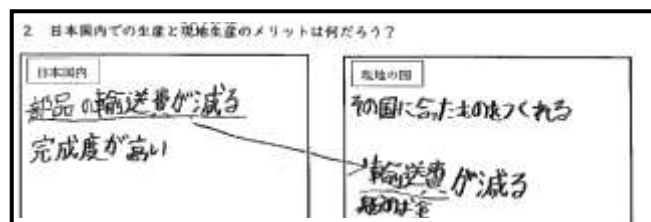
【資料3 学習計画表】



【資料4 自分に合った学び方で学習を進める児童】



【資料5 学習プリントCの一部】



【資料6 学習プリントEの一部】

(4) 様々な児童とコミュニケーションをとる児童（手立て④の検証）



【資料7 床で学習する児童】

第2時以降の学習を観察していくと、児童が主体的に話し合いながら学習を進める姿は多く見られたものの、ほとんどの児童が自分の座席で学習していた。そのため、自然と席の近くにいる友達とのやり取りが中心になり、話す相手が限られてしまう様子があった。そこで、学習場所を児童自身が自由に選べるように環境を工夫したところ、ロッカーの上や教室の床、掲示板前のスペースなど、自席以外の場所を使って学習する児童が少しずつ増えていった（資料7）。学習場所が広がると、児童の関わり方にも変化が見られた。これまで声をかけられなかった遠くの友達に自分から話しかけたり、同じ課題で悩んでいる友達を見つけて相談したりする姿が自然と生まれた。こうした姿から、学習場所の選択肢を広げることで、児童がより自然に周りの人とならうとする気持ちが引き出されているように感じた。

(5) よりよい社会を目指そうとする児童（手立て⑤の検証）

単元のまとめとして、これまでの学習を生かしながら、児童自身が「オリジナル自動車」を考える時間を設けた。これまでも「発展」の場面で似た課題を与えていたが、今回は改めて全員に一から考えさせることにした。自動車の形や機能を自由に考えるだけでなく、「高齢者のため」「環境のため」「安全のため」など、誰の、どんな暮らしをよくするための車なのかという視点も合わせて考えるよう促した。児童Xが考えたオリジナル自動車には、魅力ポイントや車についての説明に「車を動かすにもすべて電気だから環境にいい」「人にやさしく、家族のため」と書かれていた。これまでの学習で扱ってきた環境問題やエネルギーの話題をしっかりと踏まえ、自分なりによりよい社会をつくろうとする姿勢が表れており、学びが自分の考えや生活に結びついていることがうかがえた。



【資料8 隣の友達に伝える児童】

児童の作品には、学習内容と生活をつなげて考えた様子が見られた。例えば、「車の中にAEDがある『救命車』」や「行き先をマイクで伝えるだけで目的地まで連れていてくれる『ボイスカー』」など、身近な困り事や社会の課題に目を向けたアイデアが多く見られた。児童が日常の中で感じている「こうだったらいいのに」という思いが、学習を通してより具体的な形となって表れていた。

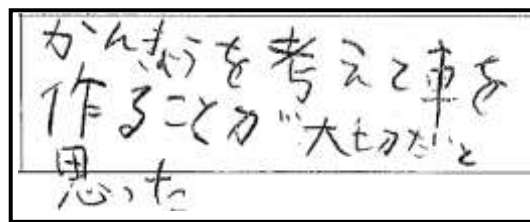
活動の最後の10分間は、考えたオリジナル自動車を隣の席の友達に紹介し合う時間とした。児童は、自分の車の魅力を一生懸命に伝えようとし、聞く側も興味をもって耳を傾けていた（資料8）。やり取りの中では、「電気で動く車は環境にやさしくていいね。電気以外でも環境にやさしいエネルギーってあるのかな」「車いすの人のための車なら、

段差がない方が乗りやすいよね。前に福祉実践教室で学んだことを思い出したよ」など、よりよい社会に向けて考えを深めようとする姿が自然に生まれていた。この日の児童Xの振り返りには、「これからの自動車は、環境のことを考えて作ることが大切だと思った」と記されていた（資料9）。自分の考えを社会的な課題と結びつけ、未来のあり方にまで視野を広げていることが分かる。こうした姿から、今回の活動は、児童が学習内容を自分ごととして捉え、社会の一員としてよりよい未来を考えようとする意欲を育てる上で、有効だったと考えられる。

(6) リアリティのある学びにつなげる児童（手立て⑥の検証）

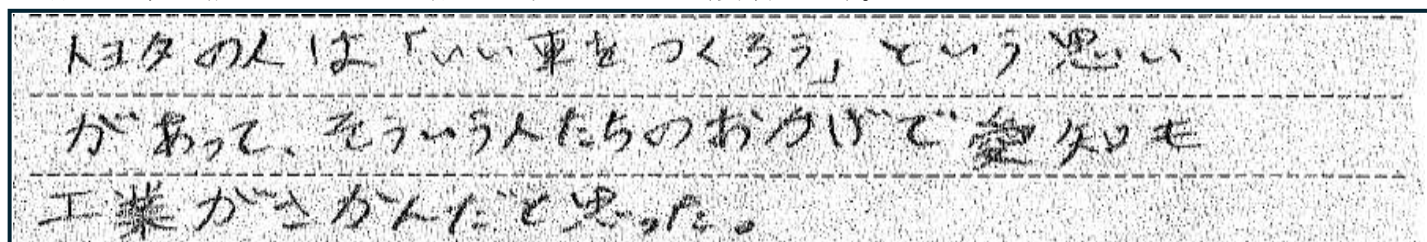
「自動車をつくる工業」の学習を終えた後、トヨタ産業技術記念館へ社会見学に出かけた。実際の機械が動く様子や、教科書だけでは伝わりきらない大きさや迫力を目の当たりにし、児童は驚きや興味を素直に表していた。教科書の写真で見っていたものと比べ、体験を伴う気づきが自然と生まれ、学習内容が現実とつながっていく様子が見られた。

また、館内では職員の方から、ものづくりに込められた工夫や努力、そして社会を支える仕事としての責任について、丁寧にお話をいただいた。児童はその言葉を真剣に聞き、働く人の思いや姿勢に触れることで、授業で扱った内容がより身近に感じられるようになっていた。児童の振り返りに



【資料9 児童Xの振り返り】

は、「自分たちの住む地域の工業はこうやって支えられているんだ」と書かれており、学習が自分の生活や地域と結びついていく様子がうかがえた（資料10）。

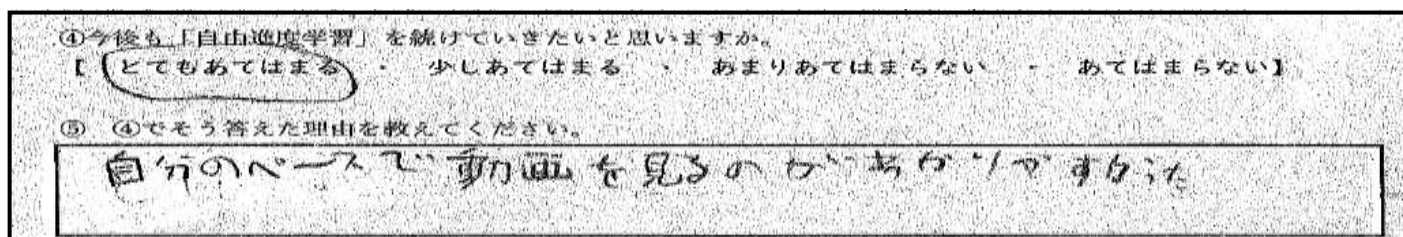


【資料10 見学後の振り返り】

○ 児童Xの変容

「日本一の自動車会社を設立し、オリジナル自動車を開発しよう」という単元の導入において、児童Xは高い関心を示し、学習への意欲を高めていた。課題解決に向けて自由進度学習に集中して取り組み、タブレットを用いた動画視聴を中心に学習を進めていたが、必要に応じて教科書や資料集を開き、自分で調べようとする姿も見られた。友達とやりとりする姿も見られ、友達と意見を交わすことで考えを広げたり深めたりすることができていた。また、オリジナル自動車の開発を考える活動では、環境問題と自動車づくりを結びつけて考える姿が見られ、学んだ知識を単なる理解にとどめず、社会の一員として生かそうとする意識が育まれていた。

さらに、自由進度学習に関するアンケートでは「自由進度学習を続けていきたいと思いますか」という問いに対し「とてもあてはまる」と答え、その理由として「自分のペースで動画を見るのが分かりやすかった」と記していた（資料11）。このことから、児童Xは自由進度学習を通して主体的に学びを進める楽しさを感じ、自分に合った学び方の有効性を実感していることがうかがえる。



【資料11 児童Xによるアンケートの一部】

6 研究の成果と課題

（1）成果

ア 仮説Ⅰについて

カースポットを設置したことで、多くの児童が自動車に関心をもち、意欲的に授業へ参加する姿が見られた。さらに、自由進度学習の第1時ガイダンスで「日本一の自動車会社を設立し、オリジナル自動車を開発しよう」という大目標を掲げたことが、児童の「やってみよう」という思いをかき立て、課題解決に主体的に取り組む姿勢につながった。

学習方法を一律にせず、児童が自分に合った手段を選べるようにしたことが、主体的な学びを促したと考えられる。また、学習の過程では、友達と意見を交わす場面が多く見られた。困っている友達に自ら進んで教える姿もあり、教師の指示による受動的な関わりではなく、児童自身が能動的に協力し合う姿が育まれていた。これは、学習方法や学習場所を固定せず、自由に選択できる環境を整えたことによる効果である。

授業後のアンケートでは、「授業に進んで取り組むことができましたか」という問いに対し9割以上の児童が「できた・どちらかといえばできた」と回答した。また、「今後も自由進度学習を続けていきたいと思いますか」という問いには、8割以上が「とてもあてはまる・少しあてはまる」と答えた。理由としては「自分のペースで学べるので分かりやすかった」「インターネットを使って詳しく調べることができた」といった意見が多く見られた。

以上のことから、自由進度学習において児童が学習方法を自ら選択できるようにすることは、主体的・対話的な学びを促進する上で非常に効果的であると考えられる。

イ 仮説Ⅱについて

本実践では、「オリジナル自動車を開発しよう」という教材を活用したことで、児童が自動車工業の学習を自分の生活と結びつけながら捉える姿が多く見られた。自分たちが考える理想の自動車を設計する過程では、これまでの学習を生かして、生活経験と関連づけて考える様子が見られた。

さらに、トヨタ産業技術記念館への社会見学は、学習内容を自分ごととして捉える上で大きな役割

を果たした。

これらのことから、教材を通した探究的な活動と社会見学という体験的な学習を組み合わせることで、児童が学習内容を自分ごととして捉え、社会の一員としてよりよい社会を考えようとする姿が育まれることが確認できた。

（２）今後の課題

本実践では、カースポットを活用したことで、児童が自動車に興味をもち、意欲的に学習へ向かうきっかけをつくることができた。しかし、カースポットを常時設置できず、授業が終わるたびに取り外して次のクラスへ移動させる必要があったため、児童が日常的に自動車に触れ続けられる環境を十分に整えることができなかった。学年掲示板や廊下の空きスペースなどを活用し、授業時間外でも自然と目に入るような環境をつくることができれば、興味の継続や学びを自分ごととして捉えることをさらに促すことができたのではないかと感じている。

マイ学習シートを使った自由進度学習は、児童が自分のペースで学び、友達と相談しながら理解を深める上で大きな効果があった。一方で、学習プリントの発問の中には、知識を確認するだけで終わってしまうものもあった。自分の立場で考えることができるような視点を入れることで、学習内容をより自分ごととして捉えられる場面が増えたのではないかと考える。

さらに、学習環境を柔軟に設定し、児童に選択させたことで、児童同士の対話が自然に生まれ、学びが広がっていったことは大きな成果であったが、静かに集中したい子の近くで話し合いが始まってしまう、思うように学習に向かえない場面もあった。今後は、話し合いをする場所、一人で落ち着いて取り組む場所、調べ学習をする場所など、目的に応じたスペースをより明確に分け、児童が自分に合った学び方を選べるような環境づくりを工夫していきたい。

これからも自由進度学習のあり方・進め方をさらに磨き、児童が主体的・対話的に学びながら、自ら課題を見つけ、解決に向かって協働できるような学習を目指して研究を続けていきたい。

７ 参考文献

文部科学省・国立教育政策研究所 OECD 生徒の学習到達度調査 2022 年調査（PISA2022）

超具体！自由進度学習はじめの１歩 難波駿（東洋館出版社, 2023）

今日からはじめる自由進度学習 西川純（学陽書房, 2024）